

研究主題 「みんながもれなく”学び合う”授業づくり ～協同学習による授業改善～」

1 どのように取り組んできたか

本校は、人権・同和教育の視点での集団づくりに加え、4年前より協同学習による授業改善に取り組んできた。各年度の研究のポイントは次の通りである。

- 平成25年度 1・2年生の机の配置をコの字型。A4版ボード各教室に常備。
- 平成26年度 全学年、コの字型。「1時間に1回はグループ学習」が合い言葉。
- 平成27年度 学び合いを促進する教師の声かけについて研究。「つなぐ・広げる・促す言葉」と「見捨てない言葉」
- 平成28年度 深い学びに導く学習課題を研究。「ジャンプの課題」の要件を抽出。
- 平成29年度 授業改善の継承につながる授業観察方法の模索。



▲共有の課題に楽しく取り組む

2 授業改善を継続し、継承するために

教職員の異動と若年教員の増加を前提として、授業改善の気風を定着させ、協同的な授業の方法を継承するために取り組んだことを示す。

○教員の意識改革のために

- 【学校課題研修】～なぜ、本校生徒にとって進路保障が重要なのか等、学校課題を理解する研修
- 【生徒理解研修】～生徒がどのような課題をもっているのか等、個々の生徒の現状を知る研修
- 【スタートアップ研修】～協同学習の基本を学ぶ導入研修であり、共通して実行する内容を申し合わせる研修
- 【公開授業研修】～全員、年4回授業を地域や他校教員に公開することで、教員の意識を高める研修

○継承のために

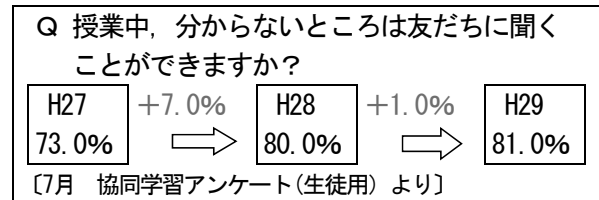
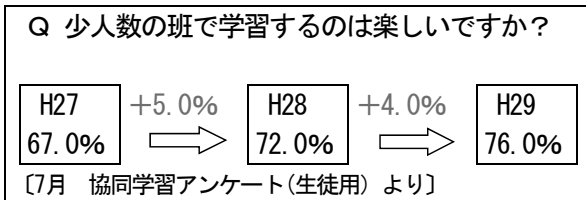
- ・研修時間の確保～毎週月曜日の部活動を中止して、各種研修を実施
- ・多様性の確保～教科の枠を越えたグルーピングで研究協議その他の研修を実施
- ・授業研究の工夫～生徒理解の視点が盛り込まれた観察シートを使用した観察記録
- ・指導案の工夫～ポイントを絞った授業デザイン形式へ



▲本校5年目の教員が1年目教員の道徳を参観

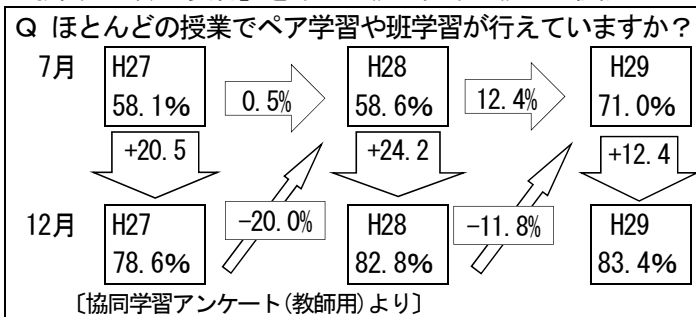
3 追跡調査による授業改善の検証

(1) 学年単位で入学から卒業まで追跡し、成果を検証する。



○「学び合い」の指標として、「グループ学習の楽しさ」や「友だちに訊ねる」項目を重視している。

(2) 「教員の意識の変容」を年内比較・経年比較から検証



○年内比較 毎年7月と比べ、12月には向上するのは、赴任した教員にも授業改善の意識が浸透するからといえる。

○経年比較 本年度が他の年度より高いのは、上記2の教員の意識を高めるための研修を年度当初から、目的を明確にして実施したこと、また、研修の時間を確保したこと等の成果と考えられる。

(3) 卒業後の追跡調査による検証

高等学校と連携して、本校の卒業生に聞き取りやアンケートを実施。授業改善の取組が高校生活でどのように生かされているのか、また、中学校時代の授業を振り返って今どう感じているのかなどについて調査・分析する。これにより、検証に多面性を持たせるとともに、授業改善に取り組む教員の意識につなげる。